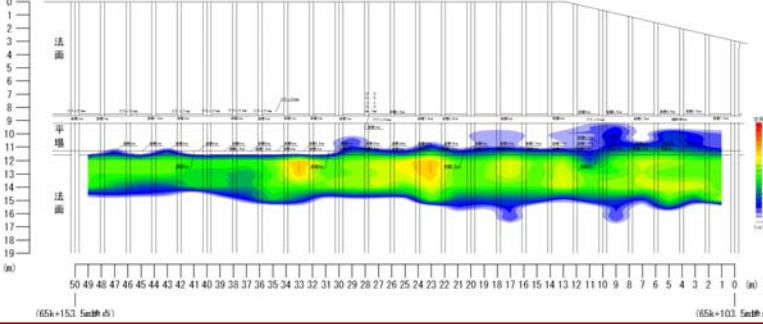


護岸直下の空洞を定量的に評価します。

● 護岸直下に発生した空洞の3次元評価結果例



# 地中レーダによる護岸背面空洞探査

—NETIS新技術登録 (TH-040005-A)—

空洞内カメラによって空洞の広がりを見ることが出来ます。

● 削孔および空洞カメラ撮影状況



● 樋管胸翼壁周辺護岸に発生した空洞内のカメラ撮影結果



本技術に関する詳しい技術資料を用意しております。下記の事業所、あるいは当社のホームページ <http://www.kge.co.jp> までご請求下さるようお願いします。

## 川崎地質株式会社

〒108-8337 東京都港区三田 2-11-15 (三田川崎ビル) 技術本部  
TEL.03-5445-2077, FAX.03-5445-2093  
URL : <http://www.kge.co.jp> Mail : [kgetec@kge.co.jp](mailto:kgetec@kge.co.jp)

皆様の担当事業所

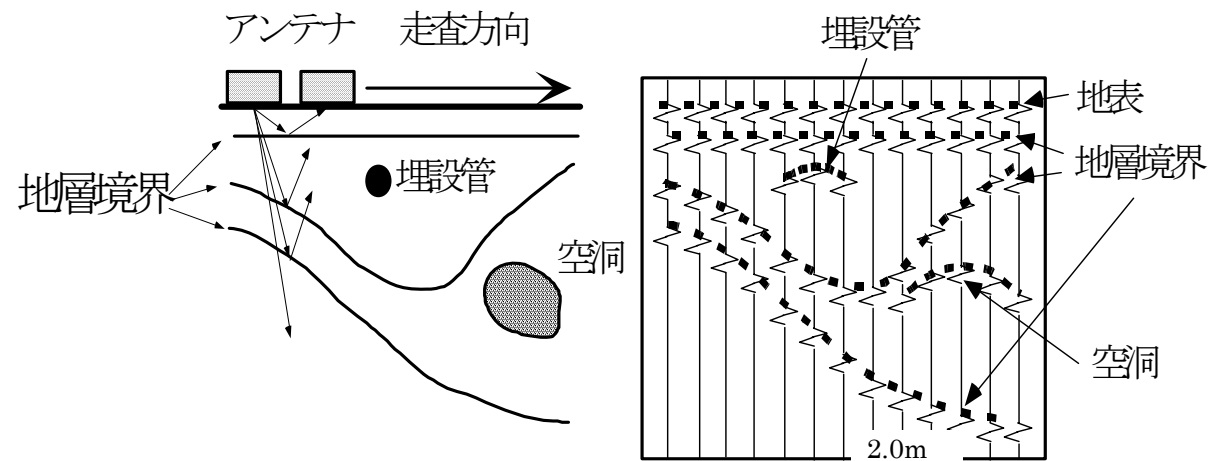


## 川崎地質株式会社

特殊な地中レーダ装置を用い、河川堤防の護岸に発生した空洞を広域的に迅速かつ的確に発見します。また、空洞の分布性や量を三次元的に評価するため、的確を絞った対策設計を実施することが可能です。

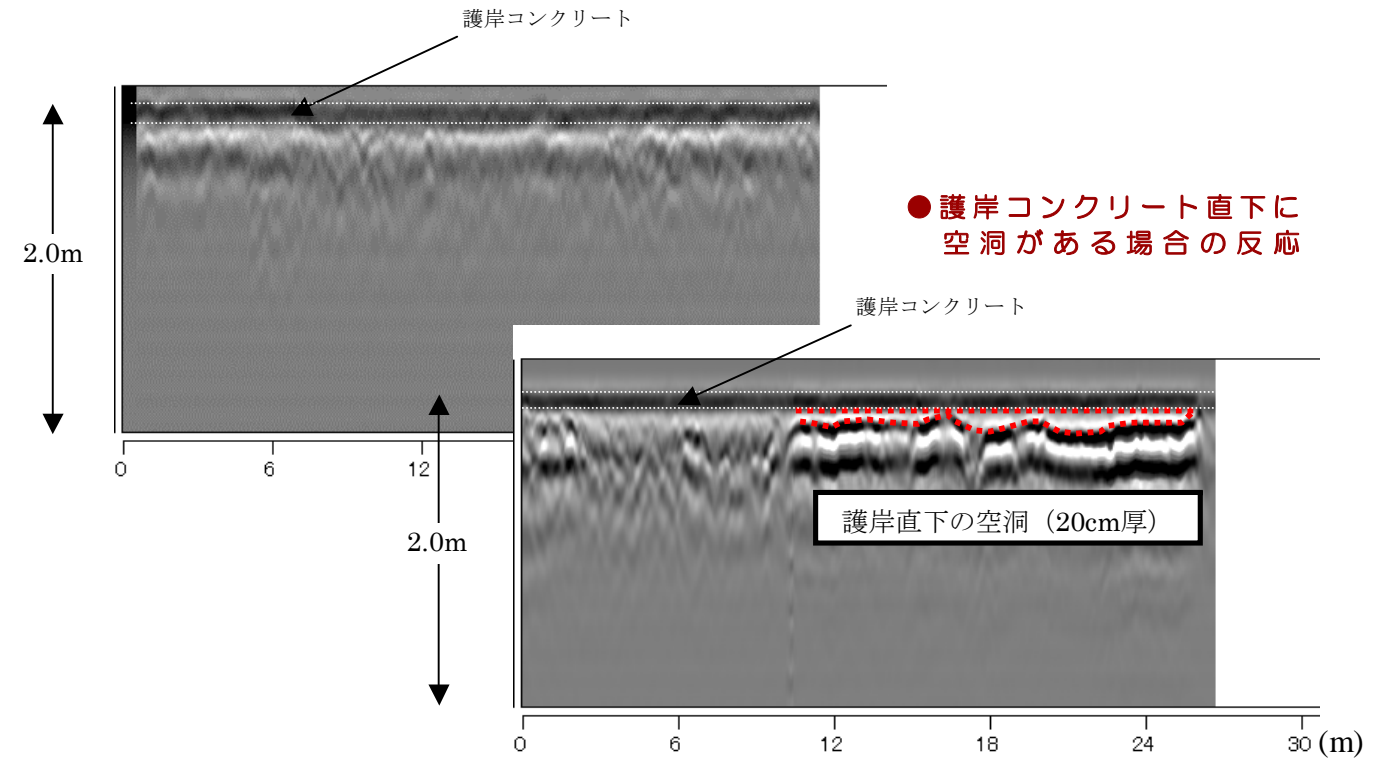
当社の地中レーダシステムは、空洞をビジュアルな断面として表現し、現場で迅速に発見します。

地中レーダ探査の探査イメージ



護岸直下の空洞を的確に検出します。

●護岸コンクリート直下が健全な場合の反応例



●護岸コンクリート直下に空洞がある場合の反応

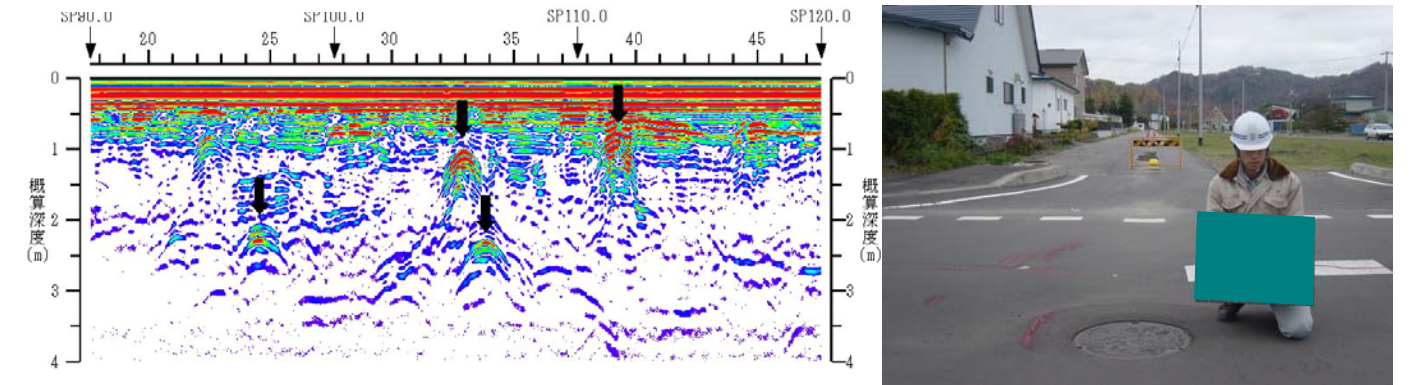
舗装構造を問わず、大小様々な地中空洞に対応します。

いつでも高精度の調査ができるように、調査箇所の舗装状態（コンクリートorAs舗装）・空洞の大きさ・深度に応じて当社は最適な装置を選定します。

探査装置の種類	空洞探査ができる深度	使用周波数	用途
一般舗装用レーダ装置	地下3m~4mまで	350MHz	液状化によって発生した大小様々な路面下空洞や、埋設管・人孔周辺に空洞を調査できます。
護岸用レーダ装置	地下2mまで	700MHz	護岸等のコンクリート直下の空洞を調査できます。当社の装置は鉄筋コンクリートでも問題なく、BOX管内からでも調査可能です。

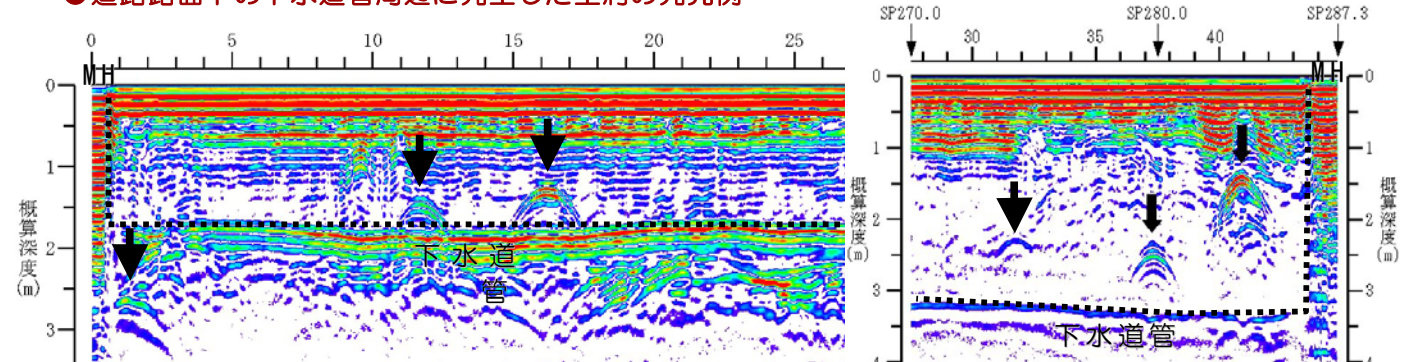
道路路面下や堤防天端では地下3mまでの空洞調査が可能です。

●堤体に群発した空洞の発見例



●液状化による激しい路面沈下（釧路）

●道路路面下の下水道管周辺に発生した空洞の発見例



▼：空洞反応

●一般舗装用レーダ装置の探査風景



●コンクリート舗装用レーダ装置の探査風景

